

報道担当各位

2010年2月1日
株式会社アイネット

アイネット、日本で初めて仮想化ソリューションのビジネスブランド
「VMware Solution Competency」を取得

株式会社アイネット（以下：アイネット）は、日本における仮想化ソリューショントップベンダーのヴァイエムウェア株式会社（以下、ヴァイエムウェア）の「VMware Solution Competency」のInfrastructure Virtualization Competency（インフラストラクチャ仮想化コンピテンシー）を日本で初めて取得しました。

【VMware Solution Competencyについて】

VMwareでは仮想化ソリューションコンピテンシーを用意し、パートナーがその専門性を顧客に明示することを可能にしています。

VMware Solution Competencyは現在以下の4種類となっており、各種トレーニング受講や顧客導入実績などの要件を満たすことで獲得することができます。

VMware Solution Competencyを取得することにより、パートナーの企業規模やビジネスモデル、また注力市場の違いに関わらず、パートナーの仮想化に関する専門性が明確となり、早い段階でお客様の信頼を獲得することができるようになります。

- **Infrastructure Virtualization Competency (インフラストラクチャ仮想化コンピテンシー)**
VMwareの仮想化ソリューションを用いたサーバ環境の仮想化や統合の能力を示す、基本となるコンピテンシー
- **Business Continuity Competency (ビジネス継続性コンピテンシー)**
データ保持、高可用性や災害復旧に関わるVMwareソリューションの専門性を示すコンピテンシー
- **Desktop Virtualization Competency (デスクトップ仮想化コンピテンシー)**
デスクトップとそのアプリケーションの仮想化に関するVMwareソリューションの専門性を示すコンピテンシー
- **Virtualization Management Competency (仮想化管理コンピテンシー)**
VMwareソリューションの仮想化インフラを設計し、サービスデリバリーを最適化し、ITプロセスを合理化する専門性を示すコンピテンシー

【クラウドコンピューティング、仮想化ソリューションへの取り組み】

一昨年秋の金融危機以降、一部の景気指数に回復の兆しがみられるものの、デフレと円高の進行が懸念され景気の先行きが不透明な中、企業はより一層のコスト削減が求められています。企業のIT投資・運用についても例外ではなく、コスト削減が求められる中、現状レベルを維持することはもちろんのこと、さらなる事業拡大のための競争力強化を進めなくてはなりません。このような状況下、IT資産の保有・運用を自社で行わないで仮想化された外部のインフラ環境・アプリケーションを利用し、従来よりもTCOを大幅に削減すると同時に、ネットワークを通じて自在に利用するクラウドコンピューティングに注目が集まっています。

アイネットは、クラウドコンピューティングの実現にはデータセンターと仮想化テクノロジーの組み合わせが必要と考えてまいりました。2009年6月に、国内最高クラスの安全性と最新のテクノロジーを備えた次世代型データセンター（第2データセンター）の稼働を開始いたしました。また、高度な仮想化技術を最大限有効活用するためにVUEMウェアの認定技術者を早くから多数育成・養成し、VIPエンタープライズパートナーやVACパートナーの取得を進めてまいりました。さらに2008年12月には、同社が主宰するクラウドサービスプロバイダ協議会の正会員15社に選ばれるなどクラウドコンピューティングの普及活動を積極的に推進してまいりました。

こうした活動の成果により、2009年10月20日には、データセンターと仮想化技術を融合させた新たなクラウドサービス「仮想化オール・イン・ワン サービス (VAiOS)」の提供を開始いたしました。この仮想化オール・イン・ワン サービス (VAiOS) は、当社の第2データセンター内に開設した仮想化運用代行センター (VOC® : Virtualization Operation Center) を中心に仮想化システム的设计・構築、運用・監視、そしてプライベート・クラウドサービスを全てワンストップで提供いたします。高度で高品質な仮想化サービスながら、お客様のIT利用にかかる、TCOを従来比率40%以上、IT資産を50%以下に削減することが可能となるサービスです。

【今後の取り組み】

アイネットは、引き続きVMware Solution Competencyの残り3種類のコンピテンシーを取得してまいります。併せて継続的に個人の技術レベル向上を図り、仮想化に関する専門性を更に高め、データセンターをベースにした仮想化オール・イン・ワン サービス (VAiOS) を最新技術かつ高品質で提供するとともに、お客様ニーズにマッチしたクラウドサービスメニューの充実を図ってまいります。

(ご参考)

【仮想化オール・イン・ワン サービス (VAiOS) メニュー】

1. 仮想化設計・構築サービス

仮想化導入に向けた目的の明確化、要件定義を行います。同時に、現状システムのアセスメントを行い、統合率、ROIの査定を行いレポート作成いたします。

(1) 要件定義・現状把握・基本設計

- ① 仮想化による標準化計画の企画
- ② キャパシティ・プランニングによるサイジング
- ③ 複数の仮想化のメリットを実現できる設計

(2) 仮想化基盤構築

- ① VMware ConverterによるP2Vサービス
- ② アプリケーション動作検証支援サービス
- ③ 試験運用・構築・展開

2. 仮想化運用コンサルティングサービス

(1) 仮想化基本運用

- (2) リソース管理 チューニング
- (3) 可用性
- (4) 仮想デスクトップ
- (5) 仮想化DR

3. 仮想化運用代行サービス (VOC®)

仮想化の運用を自社内で行うには、技術者の養成・教育期間等に多額の予算・人的投資が必須であり、それらを代行するサービスを提供します。

(1) 仮想化オペレーションサービス (VOC®サービス)

- ① 仮想マシン作成、構成変更
- ② 仮想環境監視
- ③ スケジュール設定
- ④ リソース・モニタリング
- ⑤ アップデート
- ⑥ HA管理 (VMware HA)
- ⑦ バックアップ (VCBベース) 他

(2) PaaS連携型クラウドサービス (Easy Cloud Service-ビジネス特許申請中)

- ① ハウジングーPaaSのROIコンサルティング
- ② 自社資産ーPaaSと連携した統合管理、標準又はカスタム対応のSaaS

※仮想化オール・イン・ワン サービス (VAiOS) Webサイト→ <http://www.inet-datacenter.jp/service/vaios.html>

※VOC®サービスWebサイト→ <http://www.inet-datacenter.jp/service/voc.html>

【仮想化オール・イン・ワン サービス (VAiOS) のメリット】

トータルな仮想化サービスを安価且つ高品質で提供

1. 最適な導入計画により、投資回収期間の短期化を実現
 - (1)キャパシティ・プランニングによる統合効果アセスメント
 - (2)初期導入コスト+運用・維持コストの削減両方を実現できる設計
 - (3)複数のステップでより多くの仮想化のメリットを実現できるIT基盤
2. 業界初VOC®サービスにより運用負荷軽減
 - (1)仮想化認定技術者による高度な仮想化運用支援・代行サービスが可能
 - (2)リモートもしくはデータセンター内ハウジング環境で集中管理により運用コスト低減
 - (3)データセンター内のPaaSエリアと連携することで、簡単に企業内クラウドコンピューティング環境を実現

[効果]

- ・ TCOを従来比率40%以上削減
- ・ 運用コストの抑制を5倍以上高めることが可能
- ・ クラウドサービス併用により自社資産50%以下に削減
- ・ IT機器の構成変更、運用・保守コスト削減
- ・ 電気代などランニングコストを大幅に削減
- ・ サーバーの利用開始までの期間の短縮化
- ・ 必要な分だけ利用できる利便性向上
- ・ HA、FTなどにより可用性・信頼性の向上
- ・ セキュリティレベルの向上

【仮想化オール・イン・ワン サービス (VAiOS) のバックグラウンド】

- ・ ヴィエムウェア株式会社の高度な仮想化技術を最大限有効活用する為にヴィエムウェア認定技術者の育成と養成を、今後、一層進めています。
- ・ ヴィエムウェア株式会社のクラウドサービスプロバイダ協議会、正会員15社のメンバーとしての活動に力を入れています。
- ・ ヴィエムウェア株式会社が認定するVIPエンタープライズパートナーとして顧客の獲得活動を推進致しています。
- ・ VAC (VMware Authorized Consultant) パートナーの取得、並びに、VMwareのプロフェッショナルサービスであるTAM (Technical Account Manager) プログラム契約をヴィエムウェア株式会社と締結しています。

【アイネット 第2データセンターの概要】

1. 首都圏型の利便性・安全性の高いロケーション

今回、新たに建設した第2データセンターは、都心から約37km、海岸線から約9km、標高48mに位置し、水害や液状化の危険が少ない硬質な地盤に災害リスクを考慮して建設されました。首都圏に位置しながら都心からの交通アクセスにも恵まれており、災害対応時にも来館可能な好条件の立地です。

2. 国内最高レベルの安全性をもつファシリティ

ハイブリッドTASS構法による免震構造の建物や冗長構成を採用した電源、空調などの設備を備え、災害対策（ディザスタリカバリ）やBCP（事業継続計画）に対応しております。特別高圧66,000ボルトを2系統で受電し、発電装置は停電時にも48時間連続運転が可能で、さらに災害時でも燃料自動給油システムを採用しているため継続運転が可能です。

3. 最新のセキュリティ

データセンターのセキュリティは、非接触ICカードとパスワード、生体認証技術（虹彩認証）を採用したアクセス制限、フラッパーゲート、マントラップを組み合わせた入退室管理を実施しています。また、最新のITVカメラによる映像の監視・保存により堅牢なセキュリティシステムを構築しました。

4. 環境に配慮したグリーンデータセンター

温熱環境シミュレーションの実施として、高度な熱解析技術や最先端VRシステム「Hybrid Vision（ハイブリッドビジョン）」を活用したエアフロー設計を採用。77cmのフリーアクセス高と階高5mを確保し、天井フラットスラブ採用による空調効率の向上やエネルギー監視システムによる省電力化を図り、全熱交換型換気方式による廃熱回収により、設備・機器等にかかる負荷低減などグリーンITへの対応をしております。

第2データセンターは、建築物総合環境性能評価（CASBEE横浜）において「Aランク」を獲得しました。

5. キャリアフリーのネットワーク

ネットワークについては、キャリアフリーとなっております。利用ユーザーのネットワーク早期開通の為に複数キャリアのノードを設置し、導入時から10G以上の高速・大容量通信が提供可能です。

※ 第2データセンター専用Webサイト → <http://www.inet-datacenter.jp>

【商標について】

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

【会社概要】

商 号：株式会社アイネット I-NET CORP.
本 社：〒220-8401 横浜市西区みなとみらい3-3-1 三菱重工横浜ビル23階
T E L：045-682-0800（代表）
設 立：1971年4月22日
上 場：東京証券取引所市場第一部（証券コード：9600）
事業概要：情報処理サービス、ソフトウェア開発事業
売 上 高：253億円（2009年3月期：連結）
資 本 金：32億円（2009年3月31日現在）
従 業 員：単独 1,053名，連結 1,712名（2009年4月1日現在）
資 格 等：厚生労働省 特定労働者派遣事業者
経済産業省 システムインテグレータ
総務省 届出電気通信事業者
JIPDEC プライバシーマーク使用許諾認定
JQA ISO 9001、JQA ISO 14001、JQA ISO/IEC 27001認証取得
U R L：<http://www.inet.co.jp>

■本件に関するお問合せ先

株式会社アイネット 広報担当 高宮、鈴木
〒220-8401 神奈川県横浜市西区みなとみらい3丁目3番1号 三菱重工横浜ビル23階
TEL：045-682-0808 FAX：045-682-0818 E-mail：infoir@inet.co.jp

以上